

秋田大学改革プラン2025-2026

『夢の実現 ～選ばれる秋田大学を目指して～』

令和6年4月に学長に就任し、私は「秋田大学に集う学生・教職員全ての人々の夢の実現を目指す」との抱負を掲げ、夢を実現する場と機会を提供することが大切だと述べました。

今は予測が困難な時代ですが、自分たちが未来を描き、その夢を実現することは可能であると信じています。

世界及び国内では、国際秩序の根幹を揺るがす終わりの見えない紛争、未曾有の気候変動や災害問題等歴史的・構造的な変化と課題に直面しており、秋田県においても、人口減少、高齢化、県内経済の低迷など、地方が抱える課題の先進地になっています。

加えて、秋田大学は、予算規模の縮小と働き方改革による教育研究時間の減少の中で、教職員の労働負担軽減と教育研究力の向上という相反する課題に取り組まねばなりません。

一方で全国有数の食料供給力、多様な再生可能エネルギーを有するなど、国内課題のみならず世界課題をも解決に導くポテンシャルを有しているのが秋田県であり、そこに置かれた唯一の国立大学として、これまでと同規模以上の「国際的な水準の教育・研究の遂行」、「地域の振興と地球規模の課題の解決」、「国の内外で活躍する有為な人材の育成」を継続・向上するために、今、大きな変革が必要です。

この度、令和6年度に策定した「秋田大学改革プラン2024」を改定し、「秋田大学改革プラン2025-2026（南谷プラン）」を策定しました。全ての人々の夢の実現を目指すため、秋田大学の基本理念に基づく明確な目標及び計画として、継続して実行していく所存です。



国立大学法人秋田大学
学長 南谷 佳弘

将来ビジョン

研究	教育	地域貢献	地域医療	国際化
「未来を切り開く応用・実践研究」と「人類の知を進化させる基礎・先端研究」を両輪として、これまで培ってきた強みと特色、秋田県の地域課題を踏まえた重点研究分野の推進と、学際融合による新たな知の創出を推進する。	地域と世界の課題解決を牽引する「学修成果重視」の大学へと転換する。 入学前～学部～大学院～卒業・修了後の社会を一貫通貫で設計することにより、基礎力・テラシーと専門的能力の育成をスパイラルに統合し、「実社会で通用する教育成果」を可視化する。	リカレント教育、地域協働、防災減災の三部門を一体的に展開することで、大学が地域の共創エンジンとして機能し、誰もが学びにアクセスでき、学びが経済と社会の再生につながる「知と人材の循環型地域」の実現を目指す。	「雪国」と「過疎化」という二重の制約の下で、地域全体で支え合う「地域完結型の医療体制」への転換及び、医療の「移動」と「通信」の再設計を牽引するため、総合的に患者を診ることができる医師や、デジタル技術を使いこなす医療人材の育成を推進する。	「世界と地域を双方向に結ぶグローバル拠点」として、国際的な人材流動性を高める。 また、地域企業・自治体・教育機関との協働を通じて、外国人留学生の地域定着と国際的な人材還流を促す「就学—就業—定着」モデルの確立を目指す。

1. 研究力アップと外部資金獲得

戦略1 特色ある研究の推進

重点研究ラボ制度による重点投資と研究の高度化

戦略2 未来研究統括機構

URA及び技術職員による研究支援体制の充実・強化

2. 教育に係わる改革

戦略1 未来人材共創機構

「未来人材共創機構」の設置等による徹底した組織のスリム化と機能集約

- 大学間連携による教育シーズの共通化・共有化
- 異文化コミュニケーション、文理横断・分野融合教育を軸とした、くさび型の教養基礎教育と、数理・データサイエンス・AI教育の強化
- デジタル技術の活用と、オンデマンド授業の効果的な運用
- 外国人留学生の地域定着に必要な、生活・文化・産業の越境知育成と、地元就職支援
- 産学官金言によるプラットフォーム構築による学生の経済支援とキャリア支援の一体的な推進
- 外国人留学生受入体制の強化、リスクリリング機会の拡充、進学A (Akita) ターン等による入学経路の多様化
- 学生に対するカウンセリング等専門的学生の強化

戦略2 学部・大学院改革

- 理系学部教育の強化、及び文系学部教育の質的転換に向けた学部改革
- 地域課題への実践的な理解と高い専門性を兼ね備えた高度プロフェッショナル人材の育成・定着に向けた大学院改革
- 教員が個々の能力を最大限発揮する教教分離制度の導入

3. 地域貢献

戦略1 地域共創機構

秋田リカレント教育プラットフォーム (AREP) の運営、自治体・企業との連携、防災教育・災害支援などの一体的展開

戦略2 学部・研究科等による地域貢献

各学部・研究科の特色を活かした地域課題解決への貢献

4. 国際化の推進と国際貢献

戦略1 外国人留学生・外国人研究者の獲得強化

ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー等の教育プログラムの普及・拡大、外国人留学生の受入や日本人学生の海外留学・派遣を促進、異文化交流の促進

戦略2 資源学における国際拠点の形成

先進国や資源保有国との新たなパートナーシップ関係を構築

5. 人事・組織マネジメント改革

戦略1 人事給与マネジメント

- 優秀な人材の獲得やURA・技術職員の組織化に向けた人事給与システムの構築
- 各専門領域や各活動領域の実績を踏まえた教員活動評価の実施
- 全学的な戦略に基づく教員の採用・昇任の推進
- 財務戦略に基づく教員ポイント制の運用と、学部・研究科ごとの柔軟かつ計画的な人事・財務マネジメントの推進

戦略2 事務改革

職員配置の最適化、不要業務の削減及び生成AIの活用等による業務DXの推進

6. 財務・経営マネジメント改革

戦略1 財務戦略

財務分析に基づく短期的及び中長期的な財務戦略の策定、及び予算の選択と集中による裁量的経費の拡充

戦略2 財源の多元化

- 寄附金、寄附講座の獲得
- クラウドファンディング、ふるさと納税、ネーミングライツの推進
- 不動産の有効活用
- 大型補助金へのチャレンジ

戦略3 全学的なダイバーシティの推進

現状及び課題・ニーズの的確な把握と教育研究環境の充実

戦略4 施設マネジメント

多様なニーズに対応した魅力あるキャンパス整備の推進

戦略5 附属病院経営強化

病床再編、病床稼働・回転率に応じた各診療科人員数の適正化等による経営改善

7. 広報・ブランディング改革

- 入試広報を含む全学的な広報・ブランディング戦略の策定による効果的・効率的な広報活動の展開